



町制 60 周年・
教育の町宣言 50 周年
記念行事

第 20 回 海外高校生による 日本語スピーチ コンテスト in 松前

Interview

酒井明香さん
福山雫さん
(伊予高等学校 2 年)



コンテストのスピーチを聞いてみると、みんな日本語が上手でびっくりしました。その中で、初めは参加する予定はなかったけれど、「めったにない機会だから話してみたい」と思い、交流会にも参加しました。海外高校生の皆さんは、話題を振ってくれて優しく話し、交流会に参加してよかったです。

◎ ホストファミリー

コンテストに合わせ、町内の 11 家族が海外高校生をホストファミリーとして自宅に招き、1泊2日を過ごしました。このうち、飯田さんファミリー＝上高柳＝は、リヨン・ジャーアンさん(シンガポール)を招きました。

Interview

飯田達也さん、明子さん、
大侑さん、千空ちゃん、夕和ちゃん ※左上がジャーアンさん



みんなで流しそうめん、すいか割りや花火をしました。ホームステイ中、知らない日本語も多かったのを教えてあげたり、シンガポールの文化を質問したりしました。シンガポールではメイドさんがいる家が多い話や、食事、学校などの話を聞いて、シンガポールはもちろん、今まで以上に世界の国々に興味を持つようになりました。旅行ではできないコミュニケーションができて楽しかったけれど、1泊という時間は短かったです。ジャーアンは「田舎に来てうれしい」と話していたので、よかったです。



◀一緒ににおにぎりを握る様子



1_最優秀賞の^{ゆえつ}兪越さん(中国)のスピーチ。流ちょうな日本語で思いを伝える 2_満員の会場 3_スピーチ終了後、質問への回答もばっちりだ 4_スピーチに笑顔を見せる観客 5_表彰式 6_同じ高校生、会話も弾む 7_国境を越え交流を深めた 8_9_特技や自国の文化を披露 10_松前つけ麺を試食 11_第1回からコンテストを支援している詩人の高崎乃理子さんから町に寄贈された本。ふるさとライブラリーで貸し出し中 12_まさき音頭に伊予高生と共に出場。日本の文化を体験

Japanese Speech Award 2015

「第20回日本語スピーチコンテスト」は7月30日、文化センターで行われました。これは、町制60周年と教育の町宣言50周年を記念して本町で開催されたものです。14の国と地域から15人の高校生が参加し、約700人の観客がスピーチに聞き入りました。

スピーチに魅了されました。終了後には交流パーティーが開かれ、愛媛県の高校生やホームステイ先の家族が親睦を深めました。パーティーでは、各国の踊りや歌、特技を披露する時間もあり、他国の文化に触れることができた貴重な機会となりました。

